

イエスの輝き

マタイ福音書 17 章 1-9

(そのとき、) イエスは、ペトロ、それにヤコブとその兄弟ヨハネだけを連れて、高い山に登られた。イエスの姿が彼らの目の前で変わり、顔は太陽のように輝き、服は光のように白くなった。見ると、モーセとエリヤが現れ、イエスと語り合っていた。ペトロが口をはさんでイエスに言った。「主よ、わたしたちがここにいるのは、素晴らしいことです。お望みでしたら、わたしがここに仮小屋を三つ建てましょう。一つはあなたのため、一つはモーセのため、もう一つはエリヤのためです。」ペトロがこう話しているうちに、光り輝く雲が彼らを覆った。すると、「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者。これに聞け」という声が雲の中から聞こえた。弟子たちはこれを聞いてひれ伏し、非常に恐れた。イエスは近づき、彼らに手を触れて言われた。「起きなさい。恐れることはない。」彼らが顔を上げて見ると、イエスのほかにはだれもいなかった。

一同が山を下りるとき、イエスは、「人の子が死者の中から復活するまで、今見たことをだれにも話してはならない」と弟子たちに命じられた。

説教

きょうの福音は毎年、3月ごろ四旬節の第二主日に朗読します。マタイ、マルコ、ルカの共観福音書に並行箇所があるおなじみの福音箇所です。

イエスが弟子の中から三人だけをつれて山にいったら、(たぶん頂上で) イエスが輝きだした。そこでモーセとエリヤと三人で話し合っている様子が見えた。ペトロは(うれしくなって?) 思わず小屋を建てましょうという、雲が弟子たちを覆い、雲の中から声がした。そうしたら恐れてしまい、イエスになぐさめられた、というのが粗筋です。山とは具体的にはどの山なのか? モーセとエリヤはなにを意味しているのか? 雲の中から声がするとは?

いろいろ解釈の余地があり、それなりに説教ができますし、わたしもセカンドチャーチで説教を何回かしてきました。でも、聖書のお勉強が好きというなら別ですが、宗教、キリスト教を知りたいのではない、とにかく救われたいのだと切実に願っている人にはいろいろなハテナ？を解説しても必要でない、そんなことを聞きたいんじゃないよ、わたしも聖書のお勉強はここでは的外れなかんじがします。

弟子たちはこれを聞いてひれ伏し、非常に恐れた。イエスは近づき、彼らに手を触れて言われた。「起きなさい。恐れることはない。」彼らが顔を上げて見ると、イエスのほかにはだれもいなかった。マタイ17:6-8

神を見る者は死んでしまう、といういつたえがユダヤ教にはあるそうです。ペトロたちが脅え恐れるのはそんな感覚だったとおもわれます。わたしたちだって神が目の前に現れたら（雲の中から声が聞こえたら）びっくりして恐れるでしょう。

だいたんに言ってしまえば、信仰とは（ここでペトロが恐れたように）恐れおののくことだと思います。

パウロの書簡を読んでいると口で神を言いあらわさなければ信仰しているとは言えない、みたいなことがよく書いてあります。教会でも信仰告白しなきゃだめだ、というように解釈してハイだけでもいいから口で言いなさいという傾向があります。でも、おっかないという気持ちがなければなにを言っても意味がないようにおもいます。

ペトロはイエスを知らないと言います。その時、ペトロはなにを恐れていたのか？そして、そのあとペトロは教会指導者となっていきます。その時もペトロを怯えから救ったのは復活のイエスでした。

イエスは近づき、彼らに手を触れて言われた。「起きなさい。恐れることはない。」わたしたちにはイエスがついています。そして、起きなさい、恐れることはない、とってくださることを信じましょう。
